

# 食品ごみ発電 市も活用を

日本共産党岡山市議団は2月8日、DOWAグループの「バイオディーゼル岡山(南区築港栄町)の食品廃棄物によるバイオガス発



食品廃棄物による発電施設(写真:同社HPより)

電を視察しました。

メタン細菌で食品廃棄物を発酵させ、生まれるメタンガスでエンジンを回して発電します。コンビ二弁当でも容器ごと処理できる特長があります。食品工場や商店からの事業系ごみを処理します。処理費用と売電収入で経営が成り立ちます。

年間3900トンのCO2削減能力がありますが、まだ

能力の2割の稼働です。

2月16日の市民産業委員会、党市議は市中央卸売市場の廃棄食材の発電への活用を提案しました。

鹿児島県志布志市などでは、家庭からの生ごみを堆肥化しています。食品ロスは出さないことが一番ですが、出たものの再資源化は必要です。東市議は気候危機に対抗するため、食品ごみまで燃やす市のごみ行政の転換を求めています。

## このままでは値上げ 水道のムダ正せ

2月16日の都市環境委員会、水道局は、2022年度から5年間の計画「アクションプラン後期編」案を示しました。

ここでは、水道

事業会計は5年間で約74億円の資金不足が生まれ、内部留保

資金が2025年度に底をつくため、財政健全化を検討するとしています。

水道事業会計は独立採算で、水道料金が収入の8割です。このままでは値上げは避けられません。

しかし水道事業には、苦田ダムの水を受水し続けるムダがあります。10万トン分の受水の枠と、4万トン余使ったことにする料金で、計23億円の受水費を毎年

## つよし

日本共産党は夏の参院選岡山選挙区に、住寄聡美(すみよりさとみ)さん(38)を立てます。住寄さんはロシアのウクライナ侵略後ただちに「侵略をやめよ」「国連憲章を守れ」の声で世界がプーチン政権を包囲するべく、宣伝や対話を広げています。(東つよし)



払っています。過剰な受水です。苦田ダム第2期工事を行えばさらにお金がかかります。巨額のムダをやめれば、水道料金値上げは避けられます。

東市議は、水は市の独自水源でまかない、苦田ダムからの受水にメスを入れること、第2期工事は行わないことを求めています。

あずま  
**東**  
つよしの  
**奔西走**

